



# Pure 純 No.154 Pacific パ Apr.2011

純パの会会報『純パ』第154号

2011年4月2日発行

発行：純パの会 〒193-0816 東京都八王子市大楽寺町155-10 吉田方  
TEL & FAX.042-652-1066

## 追い風の足音

石原 明臣

頭の中に焼き付いて離れない映像がある。

それは何年も前のこと、ベナントレースも終盤、5位6位の最下位争い、オリオンズ対ホークス戦。時々小雨降る川崎球場のナイターはあまりにも条件が悪かった。グラウンドに入った途端、あれ！あちらに2人、こちらに1人……大雑把に数えても三百人ぐらいの観客だったと思う。この試合、ホークスの監督は俊足でならした広瀬叔功さん、オリオンズの三塁手は現中日ドラゴンズ監督の落合選手だった。

最後まで試合を見届けたが、試合中もスタンドを見回しては「何でなんだ、マスコミの連中どもは、パ・リーグを三流扱いしやがって。だからお客さんがこんなに少ないんだ」とあらぬ方向に腹を立てたりもした。

それからは一にも二にもパ・リーグの試合にお客さんが増えますようにと、毎年の初詣には神様にお願いをし、新聞では試合の勝負よりもまず観客動員数に目が行く習慣ができてしまった、今もそれが続いている。

1987(昭和62)年発行の『全日本パ・リーグ党宣言』に、パ・リーグファンの心情を書いた詩があるのだが、その詩の中の一節にはこのように記されている。

人気面では追い越すのを

お父サンはこの目でしっかりと見たい

もしそれが叶わなかったら息子よ

墓参りの時は知らせてくれ

パの試合は連日満員ですと

時純パの会員だった鷹橋信夫さん。「あれはいつも私自

身が思ってた事なんで、スラスラとできましたよ」と、会の集まりで私に話してくださった。

当時の会報には、今回書いた人が次回の方を指名する「1頁編集長」の頁があった。私にも指名がきて四苦八苦した作文には

「(前文略)パファローズが日本一を決めた日を内閣は祝日と定め、内閣支持率も95%の驚異的数字を記録。パ・リーグの試合はどの球場も満員御礼の垂れ幕がかかり、パファローズの試合はプラチナならぬダイヤモンドペーパーと化し、チケットを手に入れば徹夜組が延々と列を作っている有様。嬉しい限りではないか！ 真夏の夜の夢が醒める頃、私は……(以下略)」

(会報『純パ』51号(1993年10月1日発行)より) このようなたわごとを川崎球場のナイターを思い浮かべながら書き連ねた。

近年はパ・リーグに追い風が吹いている。あの夜の事など昔の物語りだ。各球団のファンサービス、戦力の充実、そしてお客さんがたくさん来てくれて嬉しいかぎり。今年もイキのいいのがたくさん各球団に入ってきた。話題も豊富だ。鍛えに鍛えていずれどの選手もパ・リーグを背負ってくれることだろう。どのチームが優勝してもおかしくない激戦パ・リーグ。パ・リーグの王者は当然日本シリーズで勝って日本一。それを願って……

墓参りの時は知らせてくれ

パの試合は連日満員ですと

その足音が、大股で近づいてきている。